

函館ロータリークラブの例会で、 遺愛の歩みについて話をさせていただきました。

北海道新聞函館支社長の鶴野（ぬえの）様のご紹介で、2月22日に函館国際ホテルで開催された函館ロータリー例会において、卓話として「遺愛創基150周年の歩み」について、お話をさせていただきました。

ロータリークラブは1905年にアメリカのシカゴで創設され、120年近く社会奉仕活動や人道的活動に取り組んできています。函館ロータリークラブは、1934年（昭和9年）10月25日に国内14番目、道内13番目に創立された伝統あるクラブで、今年90周年を迎えました。毎週の例会は五島軒で開催されていましたが、2024年1月から函館国際ホテルに移りました。

22日の例会出席者の顔ぶれをみると、ご伴侶やお嬢様が遺愛出身という方が少なくなく、とても和やかな会でした。卓話全体としては遺愛の奉仕の歴史について、戦前については、第2代ハンプトン校長・第4代デカルソン校長のエピソード中心に。戦後は、1983年以降の遺愛改革、そして現在の遺愛生の活躍を中心に紹介させていただきました。持ち時間は28分間で、そのなかに遺愛の150年間を詰め込むのにはやはり無理がありました。時間延長をして、お急ぎの方にはご迷惑をかけてしまい大変申し訳ありませんでした。

国際ロータリーの2023・24年度テーマは『世界に希望を生み出そう』です。そして地区目標として『地域に希望を育てよう』の実現に向けて



活動しています。函館の人口減は著しく、とりわけ若年人口の減少は深刻です。渡島第1学区（函館市・北斗市・七飯町）の1988年中学卒業数はピークの6,837人でしたが、2023年は2,419人、15年後の2038年には1,275人（2023年の出生数から）と、ピーク時の18.6%になってしまうという数字が出ています。そのような中であっても、遺愛では、希望をもって道南地域の魅力創出に努める女性を育てようとしていることをアピールさせていただきました。

2024年2月26日